

2025 年度 MS 自己点検・評価報告書

I はじめに

開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年として策定された「MS-26 戦略プラン」の推進にかかり、各部署では毎年度事業進捗状況の自己点検・評価を実施している。

本報告書は当該年度事業結果の自己点検・評価を「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに取りまとめることで、本学全体の内部質保証体制のチェック機能を担っている。

II 本報告書 作成から活用までの流れ

【3 月】各部署は自己点検・評価を実施し、その結果を報告書として総合企画部に提出。

【5 月】総合企画部にて自己評価を参考に、「MS-26」ドメインごとに「実績・長所」及び「課題」を取りまとめた。

【6 月-】学長スタッフ会議・大学評価委員会、大学協議会、業務執行理事会で本報告書内容を共有することを通じて、改善活動を推進する。

III MS ドメインごとの自己評価結果

評価 A. 目標を上回る取り組みをし改善した B. おおむね目標通りの取り組みをし改善した C. 取り組みはしたが改善していない D. 十分に取り組みず改善していない

MSドメイン別事業		評価 A		評価 B		評価 C		評価 D		判定不可		総計
		事業数	％(前年)	事業数	％(前年)	事業数	％(前年)	事業数	％(前年)	事業数	％(前年)	
大学	01-1:人材の確保と育成／学生	56	45 (33)	50	40(47)	10	8(15)	7	6(4)	1	1(1)	124
	01-2:人材の確保と育成／教職員	47	47(45)	48	48(50)	3	3(4)	2	2(1)	1	1(1)	101
	02-1:教育の充実／学びの促進	71	30(32)	147	63(60)	14	6(7)	2	1(0)	0	0(0)	234
	02-2:教育の充実／大学院	23	21(25)	72	65(61)	13	12(12)	2	2(2)	0	0(0)	110
	02-3:教育の充実／学生支援	20	24(26)	51	62(60)	8	10(6)	3	4(3)	0	0(5)	82
	03-1:研究の充実／研究推進	14	29(20)	31	63(64)	2	4(7)	2	4(9)	0	0(0)	49
	03-2:研究の充実／国際的研究拠点	4	31(31)	3	23(46)	5	38(15)	1	8(8)	0	0(0)	13
	04-1:社会貢献	19	32(31)	35	59(60)	4	7(9)	0	0(0)	1	2(0)	59
	05-1:組織・経営改革／組織の活性化	10	21(21)	30	64(64)	6	13(11)	0	0(0)	1	2(4)	47
	05-2:組織・経営改革／ブランド力の向上	6	20(33)	22	73(59)	2	7(7)	0	0(0)	0	0(0)	30
	05-3:組織・経営改革／基盤整備	17	28(32)	38	62(63)	1	2(4)	1	2(2)	4	7(0)	61
	小計	287	32(31)	527	58(58)	68	7(9)	20	2(2)	8	1(1)	910
高校	01:人材の確保と育成	1	20(20)	3	60(60)	1	20(20)	0	0(0)	0	0(0)	5
	02:教育の充実	2	29(60)	5	71(40)	0	0(0)	0	0(0)	0	0(0)	7
	03:社会貢献	0	0(100)	2	100(0)	0	0(0)	0	0(0)	0	0(0)	2
	04:組織・体制整備	1	25(0)	3	75(100)	0	0(0)	0	0(0)	0	0(0)	4
	小計	4	22(38)	13	72(56)	1	6(6)	0	0(0)	0	0(0)	18
総計		291	31(31)	540	58(57)	69	7(8)	20	2(2)	8	1(1)	928

【大学】

1-1: 人材の確保と育成／学生

(1) 実績・長所

- ・入試制度について、推薦・一般選抜共に改善を行った結果、延べ出願者数は 62,005 人。
- ・優秀な学生確保に向けて、各学部における入試区分別の在学生の成績分析を実施。
- ・2026 年度入試より、全学部において総合型選抜入試制度の導入を決定。
- ・WEB 媒体・紙媒体による情報発信に加え、説明会、高校訪問、来校型イベント等を通じて、入試広報を強化。
- ・大学院進学者の確保に向けて、広報活動の強化及び学会帯同等の進学意欲を喚起する取り組みを実施。
- ・東海地区を除く 43 都道府県出身の学生を対象に、経済的負担の軽減を図るため、奨学金を新設することを決定。
- ・特別強化・強化・準強化の体育系クラブに必要なコーチを配置し、指導体制を充実。

(2) 課題

- ・学齢人口の減少を踏まえ、志願者の質及び量の確保。
- ・優秀な学生の確保に向けた入試制度の見直し。
- ・新たな試験制度の円滑実施。
- ・受験生情報の収集・分析を活用した、受験生ニーズに応じた質の高い情報提供。
- ・東海地区以外における認知拡大及び出願促進策の検討。
- ・グローバル人材及び外国人留学生の確保に向けた施策の企画・実行。
- ・大学院の定員充足に向けた施策の展開。

1-2: 人材の確保と育成／教職員

(1) 実績・長所

- ・「FD・SD フォーラム」において、「コンピテンシーを育成するアクティブラーニング」をテーマに実施。その他、FD・SD 学習会・新任教員研修等多面的な FD・SD 活動を推進。
- ・研究不正の防止を目的として、研究者に対し、研究倫理教育及びコンプライアンス教育を実施並びに研究ガイドブックを配付。
- ・専門人材を確保し、各部署の機能強化を推進。
- ・2026 年 6 月から事務職員新人事制度の導入を決定。

(2) 課題

- ・SD・FD 参加率のさらなる向上と教育の質的向上。
- ・多様な雇用形態を活用した教員組織編成の検討。

2-1: 教育の充実／学びの促進

(1) 実績・長所

- ・8 学部が新たに「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に申請し、全学部において同認定を取得。
 - ・「データサイエンス・AI 入門」を一般教育訓練給付制度の指定講座として登録し、受講生の募集を開始。
 - ・研修の実施やシラバス様式への記載欄追加等を通じて、各科目におけるアクティブ・ラーニングの導入を促進。
- 2026 年度の実施率向上。

- ・学部・学科別に、「科目別学修振り返りアンケート」結果の経年比較データを作成し、学生の姿勢・態度、理解度、成長実感等の推移を可視化。併せて、教員が授業改善に活用できるよう、活用マニュアルを整備。
- ・卒業予定者に対し、4年間の学修成果を可視化した「名城大学ディプロマサブリメント」を発行。
- ・継続的な学修記録の重要性を分かりやすく示した「学修ポートフォリオ スタートガイド」を通じて、就職活動における学修ポートフォリオの活用方法を提示。
- ・教育改善に向けて、成績及びアンケート等の IR データをダッシュボードとして作成し、大学評価専門委員会を通じて各学部・研究科に提供。
- ・2026 年度から、新たに 3 つの副専攻の設置を決定。
- ・「Enjoy Learning プロジェクト」のプログラムを検証し、活性化に向けた取り組みを推進、成果報告会を実施。
- ・アントレプレナーシップ人材育成プログラムを推進。外部資金等を活用し多様なプログラムを開催。
- ・起業活動促進拠点 M-STUDIO 利用者拡大に向け、初心者を対象としたものづくり及び機器利用セミナーを開催。
- ・起業コミュニティ・プロジェクト活性化に向け、ものづくりを通じた実践的な学びと多様なプロジェクトの創出・活性化を目的に、M-STUDIO プロジェクト支援を開始。
- ・グローバルプラザ利用促進により、学生の英語力向上とグローバルマインド涵養を図り、目標を上回る 30,000 人超が利用。
- ・グローバル人材養成に向けたプログラムを推進、目標を上回る 2,500 人以上が参加。
- ・受入れ留学制度の拡充に伴い、過去最多の交換留学生を受入れ(62 人/前年度比 10 人増)。

(2) 課題

- ・学部・研究科における教育改善の更なる充実及び成果の可視化。
- ・「科目別学修振り返りアンケート」の結果を活用した授業改善。
- ・アクティブ・ラーニング型授業のさらなる普及。
- ・成績管理の厳格化・明確化への対応。
- ・副専攻制度の履修者増加に向けた取り組み。
- ・学生の授業外学修時間の増加に向けた取り組み。
- ・次期戦略プランに基づく、学生の学びを促進する新たな支援事業の立案。
- ・内部質保証システムへの学生参画の検討。
- ・アントレプレナーシップ人材育成プログラムの学内認知度向上による参加学生の増加。
- ・留学生の受け入れ及び国外派遣学生の増加。

2-2:教育の充実／大学院

(1) 実績・長所

- ・修了時アンケートを実施し、教育改善のエビデンスとして活用。
- ・全研究科において、修士課程(博士前期課程)の学位授与方針対応表を点検し、教育課程の体系化を推進。

(2) 課題

- ・コースワーク及びリサーチワークの検証。
- ・大学院進学率向上に向けた施策の推進。

2-3:教育の充実／学生支援

(1)実績・長所

- ・就職ガイダンス、個人面談、就職適性試験(SPI)の対策講座、留学生向け就職支援プログラム、障がい学生向けガイダンス等を実施し、キャリア支援を推進。
- ・キャリアセミナーや1on1面談の機会提供などを通じた、大学院生に対するキャリアパス支援の拡充。
- ・チャレンジ支援プログラムにおいて、合宿・セミナーを通じアントレプレナーシップ教育を行い、海外研修はアメリカ(ハワイ)とインドで実施。
- ・障がい学生支援を担うサポート学生の育成事業を実施。
- ・特別強化クラブ及び強化クラブに対する学生の理解促進と、クラブへの誇り・愛着の醸成につながる展示を実施。
- ・幅広い学生が学びの場として活用できるよう、アリーナにおける正課授業、課外活動、イベント等の多様な利用を想定した施設整備を推進。
- ・本学卒業生である長谷川士郎氏から寄贈された株式の配当金を原資とし、博士課程在学者に対する授業料相当額や派遣交換留学・研究室留学に係る費用を給付する「長谷川士郎奨学金」を創設。
- ・ボランティア協議会の学生が、大地震を想定した避難訓練の運営や地域でのボランティア活動に多数参加。

(2)課題

- ・退学防止に向け、学修指導面談等を通じて、学生個人の状況の正確な把握及び適切な助言や支援の検討。
- ・成績管理の厳格化・明確化への対応。【再掲】
- ・公務員試験合格者数の増加に向けた公務員講座の見直し。
- ・課外学生生活活動への支援の充実。
- ・学生協力員の確保。
- ・障がい学生支援体制の充実に向けた、他大学との連携強化。
- ・アリーナの利用状況を踏まえた、運営体制及び運用方法の改善。

3-1:研究の充実／研究推進

(1)実績・長所

- ・各種研究センターを中心とした独創的・先駆的な学術研究活動を支援。
- ・科研費等外部研究資金獲得に向け、申請書作成支援等を行う学内アドバイザー体制を見直し、分野ごとに幅広く対応できるよう整備。
- ・学外競争的資金の獲得支援、企業とのマッチング、知的財産管理、スタートアップ支援、産官学連携・研究支援サイト(MRCS)での研究成果発信、産官学連携活動をURA中心に促進。
- ・本学の研究力と研究シーズを広く社会に発信し、共同研究など新たな産官学連携のきっかけづくりを目的とし、学外展示外への出展に加え、オンラインによるバーチャル展示会「リサーチフェア」を開催。
- ・研究インテグリティ確認調査を実施し、研究の健全性・公平性確保を推進。
- ・文部科学省オープンアクセス(OA)加速化事業の採択を受け、学術雑誌へのOA論文掲載を加速。

(2)課題

- ・MRCSコンテンツの充実、各種展示会への出展、リサーチフェアの開催や知財活用を通して、本学研究シーズと外部ニーズのマッチングの促進。
- ・学内アドバイザー制度の利用促進や科研費申請書書き方ハンドブックの改訂などによる科研費申請率及び採択件数増加。
- ・企業との共同研究、各府省庁補助金等、外部資金の獲得。

- ・スタートアップ起業支援のさらなる拡充。

3-2: 研究の充実／国際的研究拠点

(1) 実績・長所

- ・インターナショナル教育・研究センターの各種プログラムを通じた国際的学術交流を実施。
- ・各学部等において海外大学・研究者との研究交流を実施。

(2) 課題

- ・研究交流のニーズを踏まえた国際的な研究体制の整備検討。

4-1: 社会貢献

(1) 実績・長所

- ・企業、自治体等と、ゼミ・研究室・学生団体とマッチングした連携事業を実施。
- ・社会連携フォーラムを「志から始まる共創ストーリー ～ 創造性とエネルギーあふれるプロジェクトのつくり方」というテーマで開催し、学外者を中心に 113 人が参加。
- ・社会連携ゾーン「shake」を通じ、パートナーシップ団体や学生の実践の場を創出。
- ・各クラブが活動地域、居住地域の清掃活動や地域イベントに参加。
- ・大学の教育研究成果の地域還元及び地方自治体との連携による公開講座を実施。
- ・専攻科の指定管理法人第 2 期の 4 年目は、教員招聘及び大学主催イベントへの参加を通じた名城大学との連携を促進。

(2) 課題

- ・行政と連携した生涯学習の場の提供及び広報展開。
- ・地域社会ニーズへの対応、大学及び研究プロモーションなどにつながる公開講座の実施。
- ・社会人の学び直しニーズの把握及びそれを踏まえた事業の創出。
- ・専攻科の次期指定管理法人(第 3 期)選定を見据えた対応。

5-1: 組織・経営改革／組織の活性化

(1) 実績・長所

- ・次期戦略プラン「MS-36 戦略プラン」及び中期事業計画の最終案の取りまとめを完了。
- ・以下改組等を実施。

外国語学部国際英語学科に国際キャリア専攻及び国際英語専攻の 2 専攻設置(2026.4-)、理工学部化学・物質学科設置(2026.4-)、情報工学研究科情報工学専攻設置(2026.4-)

- ・大学評価委員会において、自己点検評価、IR データ、第3期認証評価結果等を踏まえた全学レベルの課題を抽出し、改善に向けた取り組みを実施。
- ・2026 年 6 月から事務職員新人事制度の導入を決定。【再掲】

(2) 課題

- ・現行戦略プラン及び中期事業計画の総括及び次期計画の策定。
- ・次期の認証評価を見据え、教学 IR データを活用した学生の学修成果に基づく内部質保証の実質化の推進。
- ・大学運営に対する学生・教職員からの意見反映方法の確立。
- ・大学院(博士)の定員充足。

5-2:組織・経営改革／ブランド力の向上

(1)実績・長所

- ・開学 100 周年に向け、新法人ロゴマーク並びに大学及び附属高等学校のマスコットキャラクターの作成や大学の歴史を振り返ることができる学内装飾を実施。
- ・開学 100 周年記念アリーナ開設記念イベントを開催。
- ・開学 100 周年に向けた機運醸成を目的として、全世代の卒業生を対象としたホームカミングデイを開催。
- ・保護者及び高校生向けに、本学の就職支援の内容とその実績を紹介するパンフレットを作成。
- ・大学スポーツの価値向上と一体感の醸成を目的とした、名城スポーツ VI(ビジュアル・アイデンティティ)を制作。
- ・クラブ関連イベントを学生組織(MSP)が運営。
- ・寄付金及び卒業生情報管理システム「FUNDEX」を導入し、住所変更のオンライン受付を開始。

(2)課題

- ・学内・学外への開学 100 周年認知拡大。
- ・大学ブランディングに資するコンテンツ及びニュース配信の継続、若年層の閲覧推進策の検討。
- ・名城社長会及び企業会と本学との連携の推進。
- ・卒業生の把握と効果的な連絡手段の検討。
- ・名城スポーツ VI(ビジュアル・アイデンティティ)の認知及び浸透の促進。

5-3:組織・経営改革／基盤整備

(1)実績・長所

- ・競争的補助金事業である私立大学等改革総合支援事業において全 4 タイプ中2タイプ採択。
- ・研究倫理、ハラスメント、法令遵守等に係る研修を実施。
- ・開学 100 周年記念アリーナが竣工。
- ・責任と権限の明確化を目的に、事務組織規程及び稟議規程を改正。
- ・危機管理委員会の下で全学的にリスクの洗い出し及び評価を実施し、理事会へ報告。
- ・前年度の課題を踏まえた防災マニュアルの改善及び危機対策本部体制の見直しを実施。
- ・ワークフローシステムを活用した電子決裁システムを構築。
- ・出張手続きに関する問い合わせ対応を行う AI チャットボット機能を構築。

(2)課題

- ・開学 100 周年記念式典及び関連イベントの実施。
- ・開学 100 周年記念募金事業の実施及び教育振興資金の推進。
- ・補助金増加に向けた取組の推進。
- ・各部署におけるリスクに対する未然防止策等の策定。
- ・名城スポーツ戦略の構築。

【高校】

1: 人材の確保と育成

(1) 実績・長所

- ・志願者数は 5,843 人、入学者数 658 人となり学則定員を確保。志願者数は 24 年連続で愛知県 1 位を達成。
- ・公開見学会・私立学校展等の内容充実。
- ・教職員外部研修への積極的参加。

(2) 課題

- ・100 周年事業、普通科改革を踏まえた戦略的入試広報活動の更なる充実。
- ・探究型授業手法の組織的展開。
- ・他校との教員人的交流プログラムの構築。

2: 教育の充実

(1) 実績・長所

- ・附属高校内の普通科改革委員会において、新たな教育課程を策定し、理事会の承認を得て愛知県への届け出が完了。
- ・3年間の体系的な探究型学習プログラムを実施。全クラスにおいて正課で探究型学習を実践するとともに課外でのプログラムを開発・実施し、他校からの見学・参加を受け入れ。
- ・全 1・2 年生が参加する「探究 DAY」を 2026 年 2 月 17 日、25 日に開催。身近な生活や地域社会の課題について探究し、外部助言者(43 名)との対話を通じてアクションプランを検討・発表。
- ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の一環として、名城大学の佐川真人特任教授を招聘し、高大連携講座を実施。
- ・到達度テストを用いて生徒の基礎学力を測定し、その結果に合った学習ができるオンライン学習ツール(スタディサプリ)の活用を促進。
- ・附属高校生及び保護者に対する名城大学学部学科説明会を実施(参加者計 752 人)。
- ・定期的な生徒アンケートの実施及びいじめ防止対策委員会を開催し、教員間で情報を共有。
- ・グローバルフィールドワーク台湾研修を実施。
- ・台湾の内壠高校と国際交流協定覚書を締結し、海外の連携校を 4 校に拡大。
- ・台北市立南港高級中学とオンラインによる科学研究発表を実施。
- ・学校全体におけるホストファミリー受け入れ可能家庭のデータベース化を実施。
- ・オーストラリア・タイ・台湾・ニュージーランドにおける海外研修を実施。

(2) 課題

- ・普通科改革による新たな体制・教育課程の円滑な推進。
- ・普通科改革に伴い、留学生受入れ学級をスーパーサイエンスクラス及び国際クラス以外にも拡大。
- ・探究型学習プログラムの新たな開発と体系化。
- ・退学者数 0 に向けた取組の継続。
- ・海外研修におけるオンラインの活用や取組内容の精選による見直し。
- ・海外からのホームステイ受け入れ家庭の確保。

3:社会貢献

(1)実績・長所

- ・地域の保育園、小学校(2園、1校)で延べ1,256人が交流活動を実施。
- ・地域の町内会のお祭り、子ども食堂、博物館、日本赤十字社献血センター、企業(カフェ、飲食店、キッチンカー等)での活動に述べ1,981人が参画。
- ・ダンス部が日比津小学校で開催された敬老会においてダンスを披露。
- ・吹奏楽部が「110番の日」における広報活動の一環として、中村警察署と連携し演奏を実施。

(2)課題

- ・部活動における地域との交流や貢献活動の充実。

4:組織・体制整備

(1)実績・長所

- ・2026年の学科改編に向け、普通科改革委員会の継続的な実施及び他校視察による事例調査を実施。
- ・普通科改革委員会に中堅層教員が主体的に参画できる体制を整備し、ミドルリーダーを育成・活性化。
- ・PTAの会議時に教育振興資金、100周年事業に関する寄付についての説明と協力を依頼。
- ・HPにおいて寄付金を呼びかけるバナー等改善を実施。
- ・同窓会役員と学内同窓生で連絡会を実施。全校実施の「探究Day」に助言者として卒業生を招聘。
- ・体育館を竣工。
- ・プール棟改修・増築工事の基本設計を完了し、建設業者を決定。

(2)課題

- ・ミドルリーダーが活躍できる環境の整備。
- ・寄付拡充に向け、行事前後等における高校生の活躍の発信を強化し、支援意欲が高まる時期に的確に対応できるよう改善。
- ・100周年に向け、同窓生への発信の強化。卒業生で授業、講座の講師を依頼できる方のリスト化。

以上